群馬大学 工学部 建設工学科　災害社会工学研究室

災害対応に関する住民意識の国際比較

-予期せぬ災害から身を守るために-

■調査目的

災害時の対応について，地域住民はどのように考えているのかを把握することにより，
災害対応に関する心の備えの問題点を明らかにする

■調査概要

調査は日本（桐生市境野町）と韓国（済州島）で実施した

□韓国調査

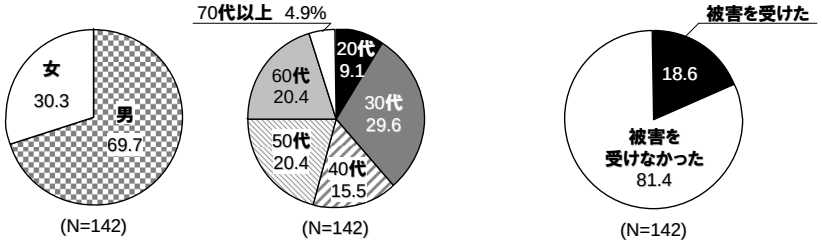
- ー対象地域　韓国・済州島全域
- ー実施日　平成17年10月18・19日
- ー調査方法　訪問郵便受け投函・郵送回収
- ー配布・回収数　配布：2,000世帯／回収：142世帯（7.1%）

□日本調査

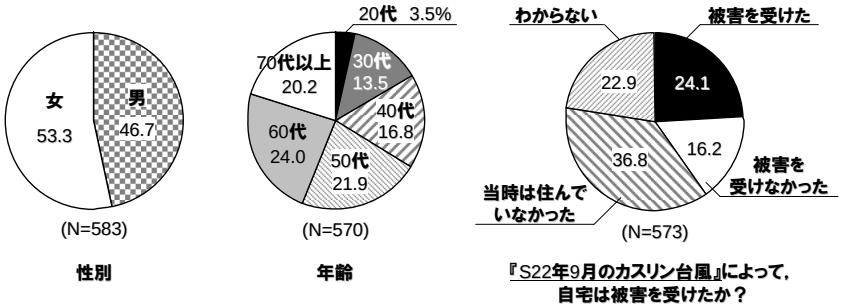
- ー対象地域　群馬県桐生市境野町の住民
- ー実施日　平成17年11月25日
- ー調査方法　町内会ルートにより配布・回収
- ー配布・回収数　配布：935世帯／回収：620世帯（66.3%）

回答者の個人属性（性別・年齢）

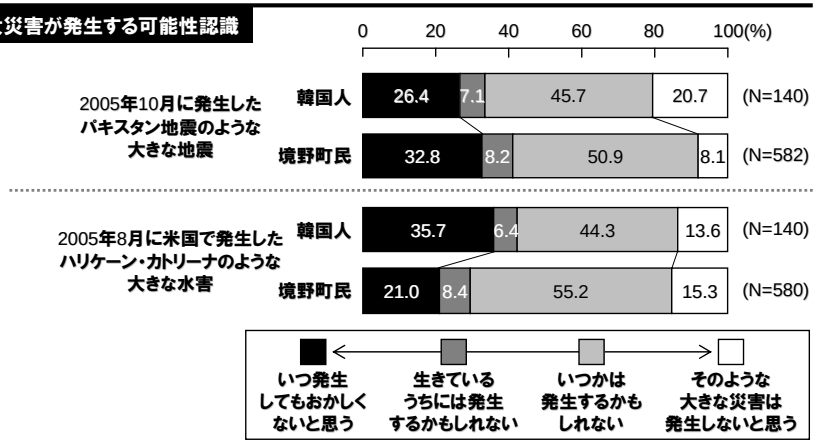
韓国人



境野町民



地域で大災害が発生する可能性認識

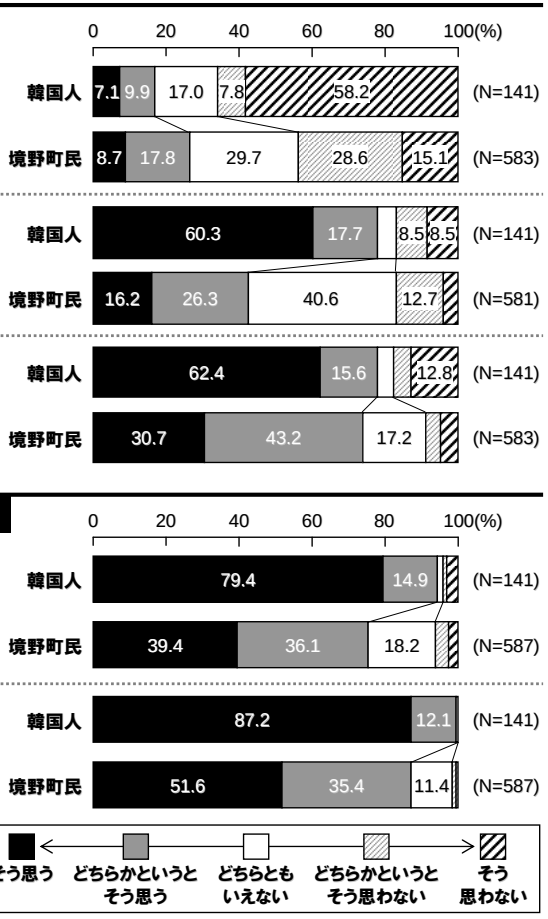


【Ⅰ】インド洋津波による被害を受けたインドの様子

2004年12月26日に発生したインド洋津波災害では，22万人近い人命が失われるなど世界各地で甚大な被害が発生しました．この津波によって被害を受けた国々は，**①数百年の間，今回のような大きな津波は発生しておらず，そのために多くの被災者にとって，まったく予想していなかった災害でした．**

しかし，この津波によって大きな被害を受けたインドでは，被害に遭わなかった人や経済的に豊かな人が被害に遭った人に対して援助を行うなど，**②国民同士が助け合うことによって，復旧しようとしていました．**

①『予期せぬ大災害への備え』について



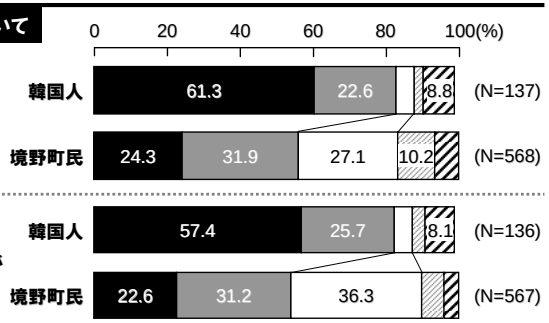
②『国民・住民同士の助け合い』について

【Ⅲ】ハリケーン・アイバンによる被害を受けたジャマイカの様子

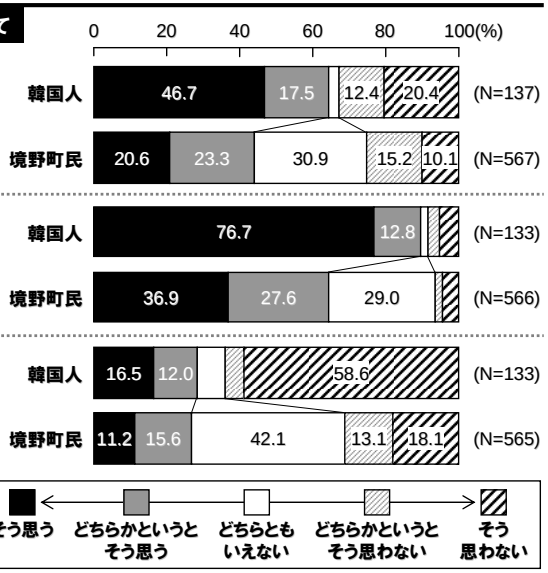
カリブ海地域の島嶼国では，毎年のように巨大ハリケーンによる被害が発生しています．2004年9月には，超大型ハリケーン·アイバン(カテゴリー5:平均風速70m/秒以上)によって約100名が犠牲となりました．

このときジャマイカでは，**⑥住民は自らの身を守るために，窓を板でふさぎ，屋根にロープをかけるなどの家屋補強をしたり，キャンドルや飲料水を準備したりして，ハリケーンの襲来に備えました．**また，あまりに大きなハリケーンを前にして**⑦政府の危機管理担当者もなすすべがなく，ハリケーン襲来の当日には帰宅しました．**

⑥『災害時の住民の自主的な対応』について



⑦『行政担当者の災害時の対応』について

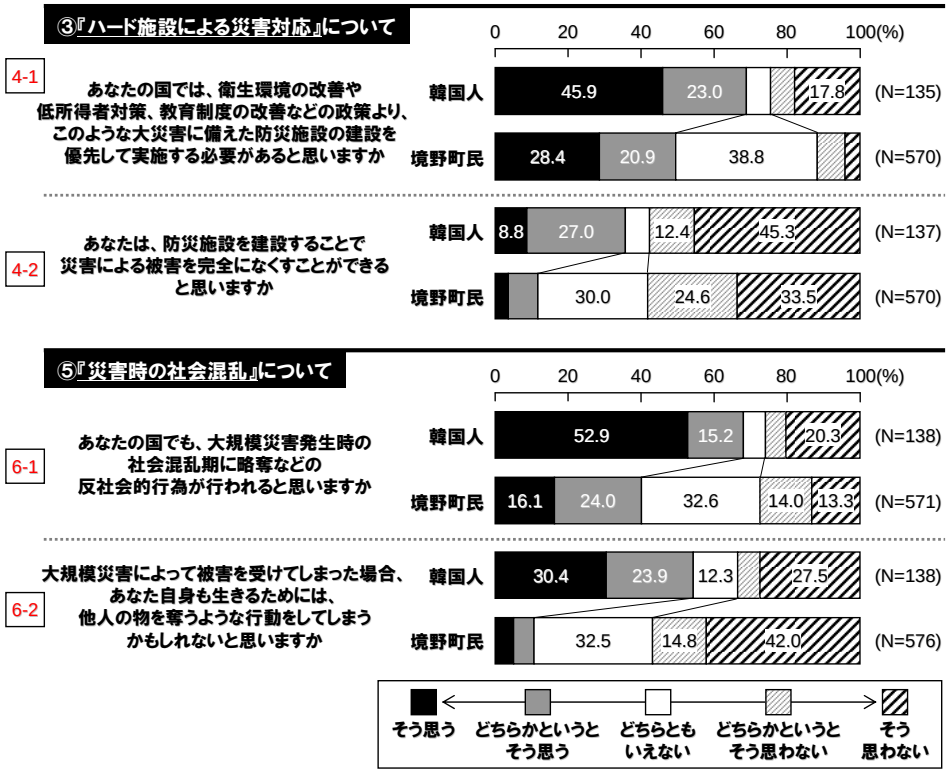


【Ⅱ】ハリケーン・カトリーナによる被害を受けた米国の様子

2005年8月，超巨大ハリケーン“カトリーナ”の発生により，**③増水した運河の堤防が決壊**したため，大洪水が発生しました．これにより，米国内では犠牲者が1000人を超えるなど，同国における自然災害としては最大級の惨事となりました．この災害時の政府の連邦危機管理局（FEMA）の対応の不備をマスコミが指摘し，**④多くの国民から批判を受け，政府の責任問題に発展しました**．

また，もっとも被害の大きかったニューオリンズでは，多くの住民が避難しましたが，一方で**⑤略奪などの犯罪行為が多発し、治安が悪化しました**．

③『ハード施設による災害対応』について



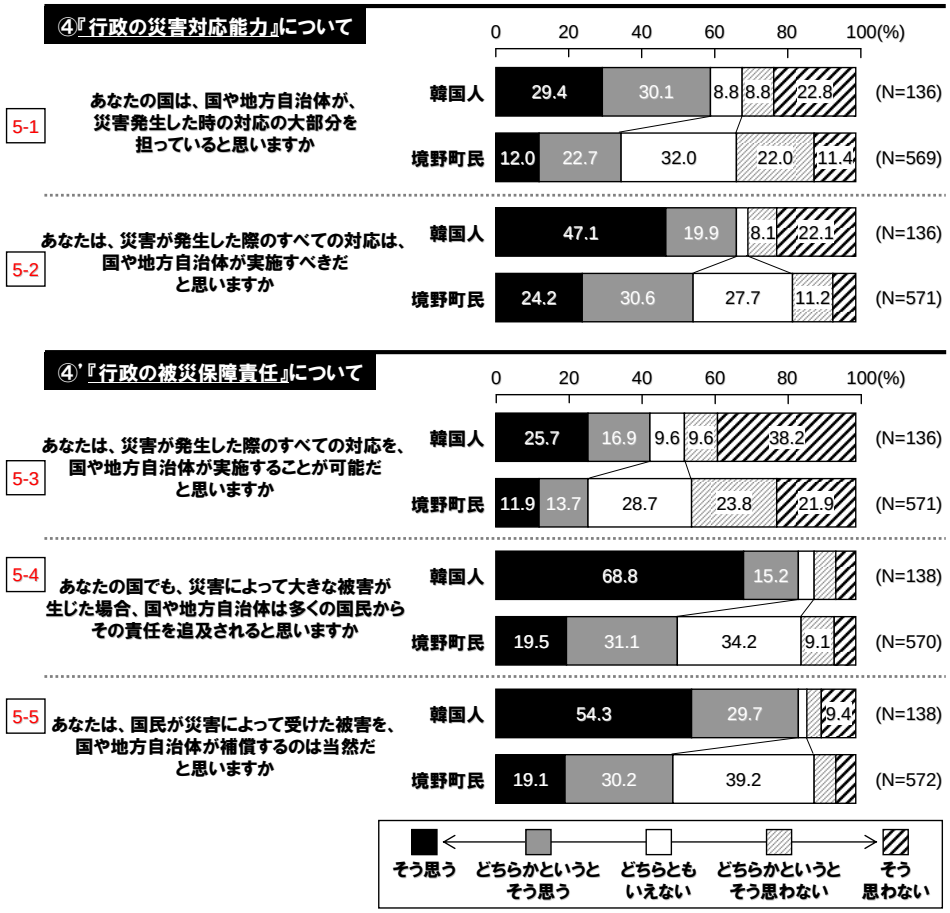
⑤『災害時の社会混乱』について

【Ⅱ】ハリケーン・カトリーナによる被害を受けた米国の様子

2005年8月，超巨大ハリケーン“カトリーナ”の発生により，**③増水した運河の堤防が決壊**したため，大洪水が発生しました．これにより，米国内では犠牲者が1000人を超えるなど，同国における自然災害としては最大級の惨事となりました．この災害時の政府の連邦危機管理局（FEMA）の対応の不備をマスコミが指摘し，**④多くの国民から批判を受け，政府の責任問題に発展しました**．

また，もっとも被害の大きかったニューオリンズでは，多くの住民が避難しましたが，一方で**⑤略奪などの犯罪行為が多発し、治安が悪化しました**．

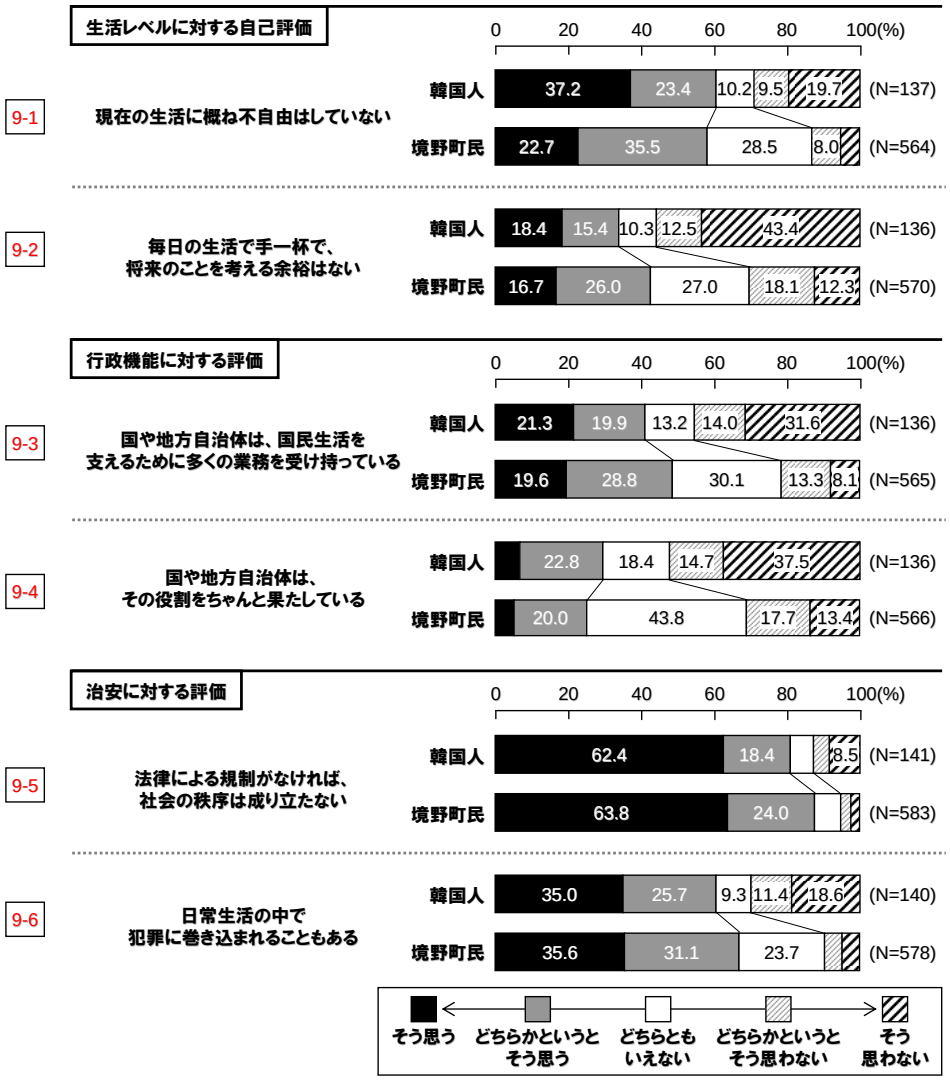
④『行政の災害対応能力』について

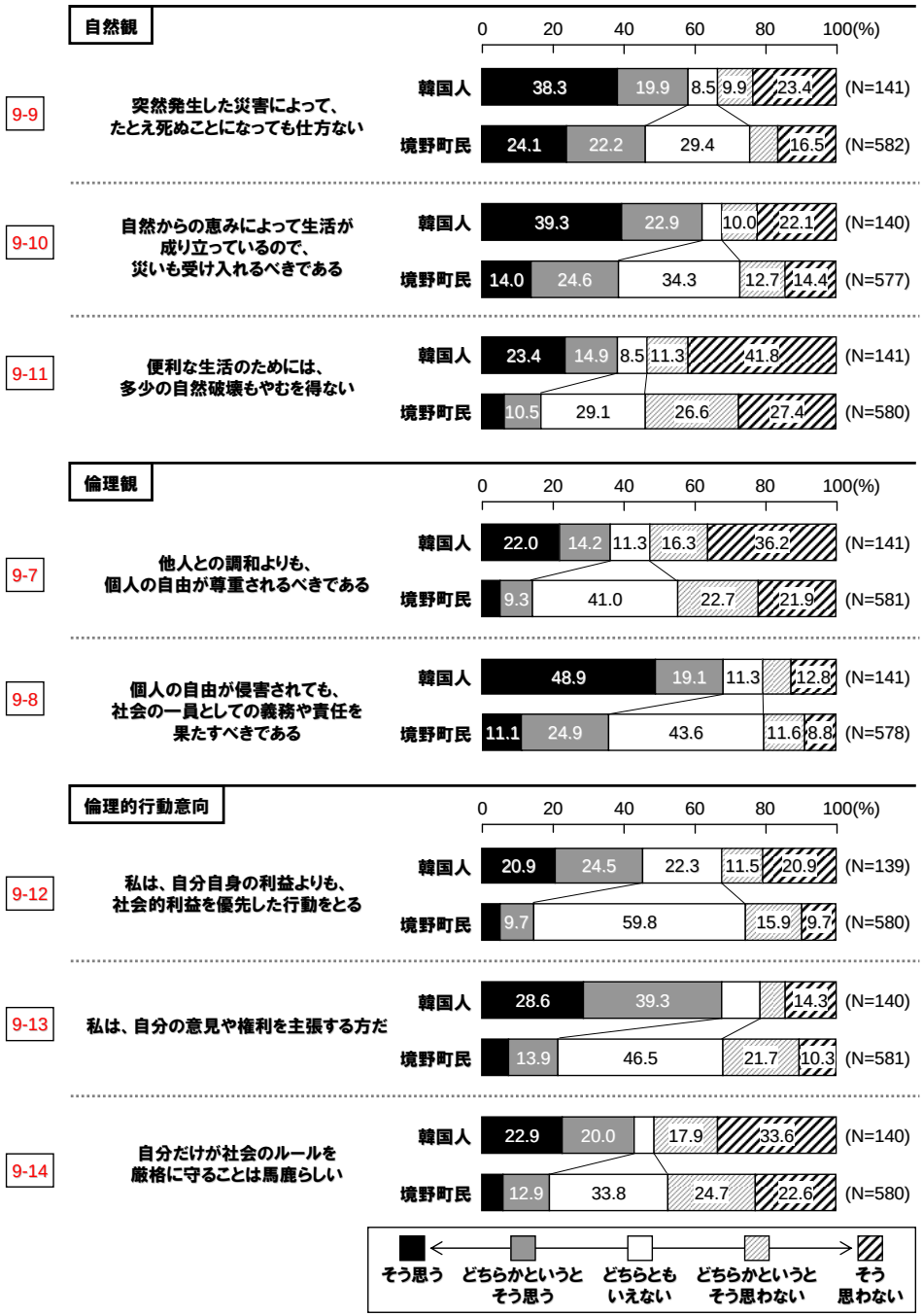


④'『行政の被災保障責任』について

国民性の比較

生活レベルに対する自己評価



国民性の比較

自然観